

町 長	副町長	課 長	主 幹	担 当	合 議

別記様式第4号

会議等結果報告書			
会議区分	会 議 ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	2 2 0
		決裁期日	平成 2 1 年 1 1 月 1 0 日
名 称	上富良野町協働のまちづくり推進準備委員会（第10回）		
日 時	平成 2 1 年 1 1 月 9 日（月） 午後 6 時 3 0 分～午後 8 時 4 0 分		
場 所	役場 3 階第 2 会議室、第 3 会議室		
出席者	委員 1 1 人 町民生活課長、事務局 2 人 合計 1 4 名		

内 容

[進行：町民生活課長]

あいさつ

丸田会長： 皆さんの出席にお礼申し上げます。前回まで「高齢化進展」のテーマについて、意見の整理をさせていただいた。今回は「地域コミュニティの活性化」をテーマに討議をお願いします。

議題

1 ワークショップによる討議

テーマ「地域コミュニティの活性化を進めるためには」

町民生活課長から、次の点について説明を行う。

- ・テーマに関する課題と解決策までを討議していただく。
- ・各グループで20時まで討議していただき、その後全体で20時30分をめぐりに意見交換していく。
- ・今回のテーマに関して、第8回資料の3．話し合いのテーマを基に説明。
- ・参考として、上富良野町の平成21年4月現在の自治会加入率は86.1パーセントで、町村では90パーセント台が平均といわれている。

各グループに分かれてテーマに関する議論を行い、午後8時00分頃から全体で発表を行った。

Aグループ、Bグループの意見は別紙。

町民生活課長： 町内会の加入率について、この町の規模において86%程度でよいのかという問題がある。町内会に入っていないと、広報誌やごみ分別手引きは届かない。ごみの分別ができていないごみ袋がステーションに取り残され、町内会で苦勞されていると思う。加入率を上げるためにはどのようなことがあるか。町では転入者にパンフレットを配布して加入を勧めているが、町内会への加入は基本的に個々の任意のため、町内会の地道な勧誘しかないと思う。現

在考えていることとして、共通のパンフレットを作成し、住民会・町内会がこのパンフレットを活用しながら加入促進を進めていくことが考えられる。

丸田会長： 行政がしっかりPRすることが大切で、これまでは何の取組支援もなかった。この問題は、行政と住民会・町内会が協力して取り組んでいくことが大切。行政がアパート組合にPRお願いしていくこと、そして大家さんにも協力してもらうことが必要。ごみの問題は、例として、ごみ袋に個々の番号を記入する制度などが考えられる。

松浦委員： 加入への工夫として、町内会費は、若者の単身世帯や高齢者世帯は半額にするなどの制度が行われている。

町民生活課長： 上富良野町は転出入が多い事情はある。加入への勧誘ができない町内会もあると聞くので、パンフレットがあれば取り組みやすいと思う。

町民生活課長： リーダー・人材の育成に関して、まずは地域の課題を皆で共有することから始まると思う。高齢化の状況や問題などを理解する中で、取り組みが進んでいくと思う。地域の課題を地域自ら解決することが住民自治であり、大切なキーワードと思う。地域力は、上富良野町という郷土を愛する心がエネルギーで、これは誰しも持っている思いであり、この思いが集まれば地域の活動のパワーになると思う。

松浦委員： 今のリーダーは、回り順で当たった役程度に感じられていて、何をしたらよいのか分からないのではないかなと思う。それぞれの活動の情報を共有化するよう会議を開催し、リーダーを養成していくことも必要と思う。そこには行政の支援が必要である。

町民生活課長： 今後開催する住民会長会議で、西富住民会の福祉マップ作りなどの事例を紹介し、取り組みのイメージを持っていただくようにしていきたい。この会議は、年3-4回開催している。

町民生活課長： 住民会自ら取り組むモデル地区に交付金を厚く交付していくことも良いと思う。地方分権の考えからも、町民税の数パーセントを財源として住民会に交付することも考えられる。既存の奨励補助制度はあるが、十分に活用されていない状況にある。

町民生活課長： テーマに対する意見として、以上のことを全体の共通理解として確認させていただく。

丸田会長： リーダーは大切である。地域のリーダーを育成する制度を作り、町内会に呼びかけ推薦していただくことが考えられる。この会として、協働の具体のことを答申に提案してはどうかなと思う。

久我委員： 住民会長会議で得た情報を、各町内会や各種委員におろしていく会議が必要で、その会議を定着させていくことが必要と思う。

丸田会長： 東明住民会では、町内会長のほか各種団体の委員も役員に入っており、年3-4回会議を開催している。

久我委員： 広く役員が入り定期的に話し合いのある地区はよいが、そのようになっていない地区もあり、コミュニケーションを図るよう集まる機会をつくっていくことが必要。

町民生活課長： コミュニティの活性化には、人が集うことから始まると思う。その話し合いから活動を広げていくことと思う。

丸田会長： 住民会への自由な交付金となり、役員会に諮り話し合いながら、その用途を決めている。これまでの内容を見直し工夫しながら町内会にも交付している。

久我委員： そのような話し合いの場が大切と思う。

丸田会長： 本日は、テーマに関する問題点と解決策を話しあっていただいた。意見は整理し、後日資料を配布させていただく。これからが大切で、コミュニケーションを深めながら進めて

いきたい。

2 その他

事務局：次回は、11月24日火曜日、午後6時30分から、保健福祉総合センターかみんで開催する。

閉 会

[会議終了：20時40分]

グループ：A 座長：北越、委員：丸田、本田、三島、瀬川（発表）、佐川、菊池（欠）、中野（欠）、記録：吉岡

テーマ	課題や問題点（会議：11月9日）	解決策（会議：11月9日）
地域コミュニティの活性化を進めるためには	<ol style="list-style-type: none"> 1 住民会・町内会への加入 <ul style="list-style-type: none"> ・住民会、町内会加入率の強化について ・アパートの住人への意識改革（町民として）- 町内会に加入するなど 2 みんなで集まれる場所づくり <ul style="list-style-type: none"> ・住民会、老人会強化運動について ・子育て世代の参加する行事が少ない、町内会の行事は敬老会のようになっている ・住民会（地域）の集まりをいかに参加させるか ・他の人（仕事・年齢）と交流の場が少ない ・住民会の会館の整備の件について ・集めるのが苦労 ・関心を持ってもらう ・世代間の交流が少ない ・高齢者が集まれる機会・場所作り 3 人材の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・リーダー（声をかける人）が少ない ・地域内の若い人が少ない ・コミュニティ作りに地域にリーダーが不足（高齢者が主となってきている） ・町内会役員が1年で変わる ・地域を担う人材の確保・育成 4 協力体制づくり <ul style="list-style-type: none"> ・支援組織、団体の連携、協力体制づくり ・家族の高齢化によって相談をする所をいかに作るか ・世代間の交流の機会・場所づくり 5 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・連絡網のスピーディー化 ・地域での交通方法として、地域に固定されたバス等は考えるべき ・住民会美化運動について ・若者は地域を求めている、年配者は地域に求めている（加入率との関係） 	<ol style="list-style-type: none"> 1 行政、住民会の働きかけ <ul style="list-style-type: none"> 大家さんから入居者に働きかけてもらう 2 参加しやすくするため行事の目標をはっきりさせる <ul style="list-style-type: none"> 例として「盆踊り」- 町内4箇所で開催している。 東児童館では、子供の菓子600個を用意するほどの参加があり、子どもと大人が楽しめる行事になっている。 <p>全体を通じて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の取り組み実例やいろんな情報を地域で共有していく ・住民会長同士が情報を共有化して、地域に広めていく。

グループ：B 座長：石田、委員：松浦、持安、渡辺（欠）、久我、岩田（欠）、大内（発表）、記録：谷口

テーマ	課題や問題点（会議：11月9日）	解決策（会議：11月9日）
<p>地域コミュニティの活性化を進めるためには</p>	<p>1 コミュニティ活動の担い手の不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が減ってきた（若者が減ってきた） ・町内会加入率の低下 ・若者をどう取り込むか ・老人世帯の増加 ・公住地域では高齢者が圧倒的に多く、葬式の手伝いの人が不足し、出た人（4-5人）で大変疲れる ・町内会活動（行事）は同じことの繰り返しで、参加者も決して多くない ・出てくる人だけの負担で多いのではないか ・老人会、ふれあいサロンに参加する人が固定化している ・共働きが多い ・出てこない人をどういう形で参加させることができるか <p>2 連帯意識（感）の希薄化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会のつながりが薄いのは価値観の違いと思うが、何としても町内会行事の参加者が少ない ・近隣同士の連帯感の希薄化 ・町内内の人同士、顔、名前が分からない ・隣近所の付き合いがない - アパート、マンションには若い人が多いが子どもの有無まで分からない。老人の世帯が分からない。 ・会話不足 ・地域ぐるみの支えあいがない ・コミュニティへの帰属意識の低下 ・隣近所の名前は知っていても詳しいことは分からない、町内会となればもっと分からない。 ・個人主義的傾向の強まり ・核家族化 <p>3 地域の情報不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会の情報は総会資料だけで、回覧も回ってこない <p>4 地域の教育力の低下</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもはたくさんいるが、子ども会活動は停滞している - 子どもは忙しい ・教育（コミュニティ教育）的課題（人々の意識の変化） ・児童福祉が弱い <p>5 核となる人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民会長たる人の思い、やり方の如何によるところが多いのでは。 ・リーダーの存在 <p>6 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共サービス = 行政サービスの意識 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の個別の活動の連携強化 <ul style="list-style-type: none"> - 老人会・子ども会ほか - そのようなことを話し合う場 ・地域の小さな課題を話し合える場づくり <ul style="list-style-type: none"> - 福祉マップ作りなど ・活動に参加しやすい状況を作り出す工夫、知恵 ・老人などが参加するきっかけ作りとなる最初の一步への支援 <ul style="list-style-type: none"> - 役員の呼びかけ、行事の工夫 ・子どもをだしに使う <ul style="list-style-type: none"> - 老人と子どものふれあう場など ・会館の整備 <ul style="list-style-type: none"> - バリアフリー化など ・サマータイムの導入 <ul style="list-style-type: none"> - 夏場に社会参加する時間の創出 ・住民会長 町内会長 班長へ情報の伝達と共有 <ul style="list-style-type: none"> - 町内会役員と各種団体や委員の活動の情報を共有化する全体会議の開催など ・行政は直接仕事をする事から、地域が自ら活動することに支援する仕事に力を入れていく（奨励事業補助など） <ul style="list-style-type: none"> - 情報を持っているリーダーの取り組み ・行政は地域のリーダー育成に力を入れること ・活動する地域に支援する